

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立東疇小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒701-0211

岡山市南区東畦656番地の2

E-mail unekkos@city-okayama.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 246名 女子 193名 合計 410名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「ふるさと東畦に学ぶプロジェクト」を活動テーマとして、ESDを「主に地域とのつながりを大切に活動」と捉え、ESDの実践を通してコミュニケーションを行う力の育成を目標とした。

具体的には、「地域の人・物・文化との体験活動を通して関わること」「自ら発見したことを伝え合うこと」「一つの学びを次へつなげること」を柱に、①農業の盛んな地域を生かした体験活動、②地域の人材を活用した学習、③福祉施設への訪問活動、④国際理解に係わる学習を行った。

① 農業の盛んな地域を生かした体験活動

地域にお住まいの方の田んぼの一画をお借りして、田植え体験をした。素足で泥の中を歩く感覚を味わいながら田植えの仕方を教えていただき、何十本も植えることで、田植えの大変さや難しさを知ることができた。また、秋には稲刈りの体験をした。鎌の使い方を教えてもらいながら、たくさんの稲を刈ることができた。千歯こきも用意していただき、千歯扱きで脱穀をする貴重な体験もできた。

② 地域の人材を活用した学習

老人クラブの方を中心に、「昔遊び体験（1年）」「昔体験（3年）」「お飾り作り（5年）」など、様々な活動に地域の方が参加してくださっている。特に「昔遊び体験（1年）」では、体育館に25名の名人さんをお迎えして昔遊び体験を行った。めんこ、あやとり、はねつきなどを教えてもらいながら、「こうするといいよ。」「上手だね。」などの温かい言葉をかけてもらって、さらに挑戦したいという意欲につながった。

③ 福祉施設への訪問活動

1回目は、職員の方の話を聞きながら施設の見学をすることで、高齢者が快適に過ごすための工夫を見付けることができた。また、職員の方が催し物をする中で、みんなが楽しく生きがいをもって過ごしていることにも気付いた。2回目は、高齢者の方々に楽しんでもらえるように、クラス毎に交流会を計画した。当日は聞き取りやすいように大きな声でゆっくり話したり、昔遊びや折り紙、クイズを一緒にしたり、劇を披露したりして交流を深めた。こうした活動を通して、お年寄りの方に接するときには思いやりの気持ちをもって行動しようとする気持ちをもつことができた。

④ 国際理解に係わる学習

「世界の12歳を調べよう」という活動で、自分の知らない国について調べ、日本と似ているところと違うところを知ることができた。そして、難民について知り、同じ人間として困っている人達のために何かできることはないか考えた。今年度は、ユニセフの募金活動と子供服を集める活動を行った。子供服は段ボール6箱分集め、それぞれの団体に送ることができた。この活動を通して、街頭募金にも協力しようという気持ちや、自分たちにもできることに進んで取り組んでみたいという気持ちをもつことができた。



① 田植え（2年）



② 昔遊び（1年）



③ 福祉施設訪問（4年）



④ 子供服を集める活動（6年）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間や生活科の学習の年間指導計画を立てる際にESDの観点で捉え直して、実践できるようにしている。

例えば、地域の特性を生かした「田植え体験」「稲刈り体験」「お飾り作り」などでは、農業の盛んな自らの地域に誇りと愛着をもち、地域の方とのコミュニケーションを大切にするとともに、地域の担い手として将来を予測することができるようにしていきたい。

また、福祉施設訪問や古着回収などの活動を通して、福祉や人権、平和に対する関心をもつことができるようにした。そして「だれもが住みやすい町にするには。」「世界中の子ども達が幸せに暮らすには。」といった課題を見付けると共に、自ら進んで実践していこうとすることができるように指導計画を立て直すようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校は、以前から多くのボランティアの方が様々な活動に関わってくださっている。老人クラブの方を初め、「うねっこ応援団」という学校支援ボランティアにも多数登録して下さり、行事ごとに多くの方が児童の活動支援のためにボランティアを行ってくださっている。

また、夏季休業中には校内研修を行っている。外部講師を招いて、ワークショップを行うことで、新しく赴任した先生方も本校で行っているESDを理解し、実践することができるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校内では、年度末にそれぞれの学年で活動の振り返りをし、成果と課題をまとめて、次年度につなげるようにしている。「ボランティアの方がいてくださったことで、活動が充実した。」という成果がある一方で「活動して分かったことを発信する機会を今以上に設ければ良かった。」という課題なども見えてきた。外部からの評価としては、活動後に参加者からご意見を聞いたり、地域協働学校運営協議会で話し合ったりして次に向けての課題を見付けている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校便り「つつみ」やホームページを通して、保護者や地域に学校で行っている様々な活動を発信したり、学年学級通信、学級懇談などで担任から児童の様子を細かく知らせたりしている。

児童は、様々な活動が多くボランティアの方によって成り立っていることを知ることによって、地域の方への感謝につながっている。また、新たにボランティア登録して自分も参加しようとする地域の方も生まれ、地域のつながりの維持や文化の伝承につながってきている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

老人ホーム、保育園、ユニクロ、アスエコ、ユニセフなど多くの団体の方と連携したり、出前授業をお願いしたりした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)
※チェック事項 2-4 に対応

特にありません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

特にありません。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 30 年度も 29 年度と同様の活動を行う予定である。

- 1 年 昔遊び（ボランティアの方と）
- 2 年 田植え体験，稲刈り体験（ボランティアの方と）
- 3 年 昔体験（ボランティアの方と）
地域安全マップづくり隊（ボランティアの方と）
- 4 年 福祉体験（老人ホームの方とのふれあい活動。）
- 5 年 環境調査（アスエコの方の出前授業）
- 6 年 服のカプロジェクト，古着回収（ユニクロの方の出前授業）

それぞれの活動がテーマである「ふるさと東睦に学ぶ」になるよう再度確認し，外部団体や地域のボランティアの方の協力を仰ぎながら，児童が「つながり」を意識した活動を行えるように工夫していきたい。